



2020年11月12日

各位

会社名 ソースネクスト株式会社
 代表者 代表取締役社長 松田 憲幸
 (コード番号 4344 東証第一部)
 問合せ先 管理 グループ
 取締役常務執行役員 青山 文彦
 電話番号 03 - 6254 - 5231

2021年3月期 第2四半期連結累計期間業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2020年5月13日に公表しました2021年3月期 第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 2021年3月期 第2四半期連結累計期間の業績予想と実績の差異（2020年4月1日～2020年9月30日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想 (A)	6,174	100	100	69	0.51
実績値 (B)	5,788	284	242	124	0.92
増減額 (B - A)	△386	184	142	55	
増減率 (%)	△6.3	184.2	142.7	80.0	
(参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	8,683	362	353	197	1.45

2. 差異の理由

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴いインバウンド需要が減少し、上期の業績予想を若干下回る形となりました。しかしながら新作のIoT製品「POCKETALK S Plus」に加え、内閣のテレワーク推進の背景を受けて、会議室用のウェブカメラ「Meeting Owl（ミーティングオウル）」やウェブ会議用にカメラの背景をワンクリックで変更できる「XPlit VCam（エクスピットブイカム）」など、新しいテレワーク関連製品の販売が好調に推移し、概ね想定通りに着地しました。特に「Meeting Owl」はCM放映後の反響も良く、製造業や金融、大学、各種団体など様々な企業へ導入し、ご好評いただいております。

販売費及び一般管理費につきましては、効果的な削減を実施しました。販売促進費は店頭への来店者数を鑑みながら大規模な販促展開を抑制しつつ進めました。広告宣伝費におきましては、インバウンド需要の減少にあわせてウェブ広告を効果的な媒体に注力することでかかる費用を圧縮しました。この結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は発表予想を上回ることになりました。

今後は、政府の大きな指針である内閣のデジタル化推進を受けて、当社では「POCKETALK」で培った音声認識技術を応用した新たなIoT製品「タブレット Mimi」と「AutoMemo」の2製品を販売することを発表いたしました。

「タブレット Mimi」は、リアルタイムで音声認識を認識する、ハンズフリーのAIボイス筆談機です。電源を入れて製品に向かって話すだけで、自動的に文字化されます。「POCKETALK」同様に事前の設定は不要で、電子機器に苦手な方でもすぐご利用いただけます。

「AutoMemo」は、録音した音声ファイルを自動でテキスト化できる AI ボイスレコーダーです。本体側の録音ボタンを押すだけで録音を開始し、録音されたファイルは Wi-Fi で自動的にクラウドへ転送されて、専用アプリで音声とテキストを確認できます。録音からの書き起こしによる面倒な手作業を減らせるので、会議メモや議事録、取材記事などを作成する際に役立ちます。

その他 7 月に発売した「Meeting Owl」は 10 月時点で累計出荷台数が 3,000 台を超えており、各企業のテレワーク化が進むにつれて今後益々需要が拡大する見込みです。

今後もテレワーク関連のソフトウェア・サービス、ハードウェアや新たな IoT 製品をスピーディに提供し、製品の多角化を推進することによって、経済環境の急激な変化にも強い経営基盤を構築してまいります。

なお、通期の業績予想につきましては、現時点では 2020 年 5 月 13 日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。今後の業績動向を踏まえ、業績予想を見直す必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

以上